

# 多文化共生事業事例集

年度

R4

団体名

飯田市

助成金名：多文化共生のまちづくり促進事業

事業費総額 665 千円

事業名

外国籍住民の社会参画促進事業

概要

地域に暮らす外国人の方が、地域で自分らしく、豊かに暮らせるよう、生活に必要な日本語学習の機会を提供。日本語教室支援者向けに、「多読入門」講座、情報交換会を開催。学習成果発表会では、学習者が日本語で発表するスピーチ大会開催。

## 事業のポイント

◇ニーズに対応し、会場を市内3カ所設けるとともに、より多くの外国籍住民が参加できるよう昼、夜間の講座を設ける。生活に必要な日本語を身につけ、また、地域の自然・歴史・文化を理解することにより、日本に対する理解と外国籍住民の地域参画につながる。

## 事業の背景・目的

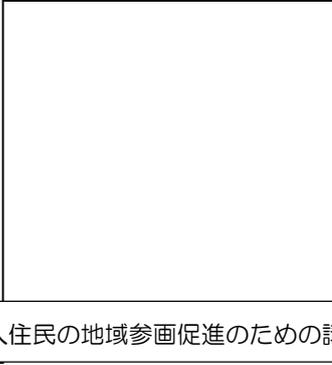
◇住民自治の担い手が減少してきている中、これからさらに外国籍住民の積極的な社会参画が必要となる。  
外国籍住民の地域参画を推進していくための日本語教室では支援者の高齢化や、減少が進んでいる。  
支援者のスキルアップ、新たな支援者を増やしていかななくてはならない。



外国人住民の地域参画促進のための講座

## 事業の詳細

- (1) 外国籍住民の社会参加促進のための情報交換会  
日本語教室間の情報交換。教室の紹介、活動の課題や近況、学習成果発表会への協力依頼など。
- (2) 外国人住民の地域参画促進のための講座
  - ①月2回 計22回 10:00~12:00。
  - ②全8回 19:00~21:00  
講座を組み立てる際には、体験前に関連する話をする回を設けるように工夫した。  
地域の農業高校の生徒さんに教えてもらい、野菜の寄せ植えを実施した。
  - ③全8回 19:00~21:00  
スポーツの秋、読書の秋、文化の秋。色々な事に挑戦しようと、「心豊かに。飯田の暮らし」を開催。  
色々な国の遊びでは日本の遊びや学習者の国の遊びもお互いに教えてもらいながら実施し、地域住民と学び合う機会となった。
  - ④学習成果発表会  
「日本語で発表しよう～わたしがおもっていること～」を、学習者が学んだ日本語で自分の思いを発表する機会としてスピーチ大会を開催。
  - ⑤市内日本語教室や国際交流関係団体の展示
- (3) 外国にルーツを持つ中高生のキャリア支援  
キャリア形成のヒントを得る機会として、NIHONGO & MIRAI クラブに呼びかけ～スイーツで起業した先輩から学ぶ～を開催。  
飯田市には調理（料理）で起業している外国人住民の方々がいる。  
一緒にスイーツを作る活動を通して、外国由来の若者や外国人住民の方々が自分自身のキャリア形成のヒントを得る機会となった。
- (4) 「多読入門」ワークショップの開催  
日本語教室での学習の幅が広がるとの事で「多読入門」ワークショップを開催



外国人住民の地域参画促進のための講座

### 事業実施における工夫点・事業の成果等

- (1) 外国籍住民の社会参加促進のための情報交換会  
参加者 5 名
- (2) 外国人住民の地域参画促進のための講座
  - ①計 22 回 延べ参加者 141 名
  - ②全 8 回 延べ参加者 学習者 71 名 支援者 64 名  
高校生 11 名 計 146 名
  - ③全 8 回 延べ参加者 学習者 43 名  
支援者 53 名 計 96 名
  - ④発表者 12 組 (13 名) 参加者 60 名
- (3) 外国にルーツを持つ中高生のキャリア支援  
参加者 学習者 13 名 支援者 6 名 計 19 名
- (4) 「多読入門」ワークショップ  
参加者 16 名

コロナ禍で会社などでも交流が減り学習者が日本語を話す機会が減っている。学習内容にも話す機会を増やすなどの工夫をした。

外国人コミュニティのリーダーも企画に参画し、コミュニティへの声かけを行い、新しい学習者の参加を促した。



### 今後の課題・(コロナ禍の状況を踏まえた) 将来に向けての展望等

各事業に外国人住民が多数参加し、外国人住民の地域参画の促進につながった。引き続き、外国人住民の参画に向けた取組をしていく。

日本語教室はいろいろな人が参加できるように平日昼間、夜間に開催している。支援者の高齢化や減少の問題はあるが、子育て中の人など託児を設ければ参加のハードルが下がると思われる。今年度は参加がなかったが、託児付きをアピールすることで、今まで参加したことのない参加者層の拡大に努めたい。

コロナ禍が収束すれば、外国人住民の増加が想定される。今後は市内だけではなく近隣町村の、日本語教室とも情報交換し、学習者がどこでも学べるようにネットワークづくりを進める必要がある。

### 事業担当者のふりかえり

- 地域の農業高校に講師を依頼。高校生には学習者、学習者には地域の高校生との交流を通し相互理解の機会とした。学習者や支援者からも高校生と交流することは少ないので高校の様子がわかりよかったと講評であった。今後も相互理解の場として交流を進めていきたい。
- 支援者と学習者がお互いに交流し学びあう事が大事。支援者は教えるのではなく共に学び、一緒に楽しむことで外国人住民の地域参画につながると感じる。